

まちづくりへの提言一覧

No.	提言論点	提言概要	性別	年齢	居住地
1	医療費給付制度に関する提言 ・母子父子家庭の(両親を扶養する家庭を対象とした)医療費給付対象の拡大	(現状) ・母子家庭である私と子どもには厚い医療費給付制度があるが、私が扶養している母親にはそういった制度がない。  (提言) ・今後、母子父子家庭でも親を扶養する人が増えると思うが、親の医療費も給付対象にしてほしい。  (効果) ・母子父子家庭で親を扶養する家庭を対象とした医療費給付制度の拡充が図られることにより、生活保護世帯も減るのではないかと。	女	40	市内
2	子育て支援に関する提言 ・子どもを気軽に遊ばせることができ、飲食も出来るような乳幼児施設の整備	(現状) ・市内には、たくさんの公園などがあり、子どもを外で遊ばせることができる環境は充実しているが、室内で乳幼児を安心して遊ばせることのできる施設は少ないように思う。天候によっては、家にこもりがちになり、保育園の開放を利用している。  (提言) ・子どもを気軽に遊ばせることができ、飲食も出来るような施設が多くあれば良いと思う。	女	29	市内
3	少子化・高齢化に関する提言 ・子どもたちの育成、高齢者や障がい者の地域での支援	(提言) ・子どもたちを育む、あるいは高齢者や障がい者を地域でどのように支えていくか検討する必要がある。	男	不明	市内
4	高齢者への支援に関する提言 ・高齢者の方が活躍できる場、気軽に立ち寄れる場づくり ・高齢者への情報周知の徹底	(現状) ・高齢者が施設に入れない、また、介護は必要ないが、独り暮らしで孤独であるという話をよく聞く。  (提言) ・施設の整備とともに、高齢者の方が活躍できる場、気軽に立ち寄れる場が必要だと思う。 ・高齢者は情報を手に入れづらいと思うので、情報周知を徹底してほしい。	女	29	市内
5	高齢化に関する提言 ・未来について新しい判断ができる人材の育成	(現状) ・担い手の育成と確保については、担うべき世代にそれまでの時代ごとに必ずしも適切に対処してきたとはいえない。  (提言) ・これまでの事情を説明し、これからの未来について新しい判断をくだしていける人材を育成すべき。	男	不明	市内
6	中心市街地の活性化に関する提言 ・市内中心部の充実(観光しやすく旅行者に優しいまちづくり)	(現状) ・県内外の観光名所は、自転車での巡りやすさ(駐輪場、レンタサイクル表示の分かりやすさ)や、駐車場の案内・バスなどの公共交通機関の案内の見やすさなど、観光しやすく旅行者に優しいまちづくりとなっている。  (提言) ・市内中心部には徒歩で回れる距離に様々な施設があり、もう少し中心部の充実を図るべきである。	女	29	市内
7	中心市街地の活性化に関する提言 ・「盛岡大通蚤の市(フリーマーケット)」の開催	(現状) ・最近の大通は中央資本の飲食店が増え、夜の街へと様変わりしており、昼の顔の個性が薄れているのを危惧している。 ・盛岡のメインストリートである大通、映画館の閉館もあり映画館通りという名称も薄れてきている印象を受けている。 ・土日は大型ショッピングセンターへ買い物客が集中し、大通はカラオケ店以外閑古鳥が鳴いている。  (提言) ・大通に面白いコンテンツを作るべき。例えば、街を活性化するアイデアとして、ヨーロッパ各地で年中開催しているフリーマーケットを参考にしながら、土日の歩行者天国を利用し、「盛岡大通蚤の市」というイベントを開催する。  (効果) ・物が溢れている時代、大型ショッピングセンターには無い出会いがあり、面白い。 ・人と人とのコミュニケーションが生まれ、熱気が出て、市内はもちろん他県からも遊びにくる人が増える。	男	42	市内

まちづくりへの提言一覧

No.	提言論点	提言概要	性別	年齢	居住地
8	<p>中心市街地の活性化に関する提言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民と官の連携による経営者同士で共有できるシステムの構築</li> <li>・若者のインターン制度の推奨</li> <li>・提言できる機会の継続</li> </ul>	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・約4年前に旅行で訪れた岩手の土地に魅了され東京から移住し、市内に店舗を構えてはいるが、PRの場が少なく、また、個人経営の店舗等の業態への行政のバックアップが少ないと感じている。</li> <li>・盛岡へ足を運んでくれる人に色々な店舗や観光スポットなどを伝えたくても、情報が無く知人が営む店舗の紹介という偏ったものになっている。</li> <li>・昨今のご当地ブームにより地場産の商品などは注目されるようになったが、国内外問わずその土地の人に新しい文化や流行を伝えるような店舗は便乗できずに個々に試行錯誤するほかない。</li> <li>・「街に人が歩く」という一番目に見えやすい活性化策として、個人経営の店舗同士のコラボレーションやイベントを実施しているが、力不足が否めない。</li> <li>・盛岡に移住し感じることは、若者の希望が少ないという点である。</li> </ul> <p>(提言)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政に幅広く個人経営の店舗などを知ってもらい、民と官が連携し、経営者同士で共有できるシステムを構築する。</li> <li>・行政が若者のインターン制度を推奨し、若者が制度を利用して勉強できる店舗を増やしてほしい。</li> <li>・今回のような提言できる場を継続的に設ける。</li> </ul> <p>(効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内外の人に色々な場所を知ってもらえる。</li> <li>・若くこれからのまちを背負って立つ世代が生き生きと暮らし、また、次世代の希望になれるようなまちになると思う。</li> <li>・インターン制度により、雇用主もリスクを負うこと無く人員を増やすことができ、雇用される側も職業訓練や将来の指針のための経験ができ、また、店舗も増えると思う。</li> </ul>	男	36	市内
9	<p>地域づくりに関する提言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気軽にみんなが参加出来るような地域づくり</li> </ul>	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アパートやマンションに住んでいると、地域のコミュニティをあまり感じられない。</li> </ul> <p>(提言)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのように地域に関わっていいかも分からないので、もっと気軽に参加出来るような地域でのイベントがあれば良いと思う。</li> <li>・行政も関わり、もっと気軽にみんなが参加出来るような地域づくりを行って欲しい。</li> </ul>	女	29	市内
10	<p>中心市街地の活性化に関する提言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地の賃料について検討会の開催</li> <li>・活性化とは、どのような状況を目指すのかについての「市」としての検討・実施・検証</li> <li>・市が、具体的に中心市街地の運営にコミットできる権限の条例化</li> <li>・「共有地」のようなイメージの場所づくり</li> <li>・シンクタンク事業のテコ入れと、機能充実『提案型のコンサルティング』ができるシンクタンク</li> </ul>	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地活性化については、様々なPR事業が行われているが、若者が、大通や映画館通りにお店を持ちたくても持てないのは、テナント料が高いためではないかという懸念を抱いている。</li> <li>・様々な利権の絡んだ問題だと思いが、このままでは、大通に入るテナントがなくなり、空き店舗の有効活用がされなくなってしまうと考える。</li> <li>・大通周辺(菜園・桜山)には、若者(20代~30代)の出店が多くみられ、それによりまちのイメージが変わったり、そのまちを訪れる人が増加傾向にあるように思える。</li> <li>・「中心市街地活性化」という文言だけが一人歩きしているような印象を強く持っており、具体的なビジョンやどういう状況が「活性化」といえるのかについての検証作業を行っていないのではないかと懸念している。</li> </ul> <p>(提言)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地の賃料についての検討会の開催</li> <li>・活性化とは、どのような状況を目指すのかについての「市」としての検討・実施・検証</li> <li>・市が、具体的に中心市街地の運営にコミットできる権限の条例化</li> <li>・「共有地」のようなイメージの場所を作っていくこと</li> <li>・シンクタンク事業のテコ入れと機能充実『提案型のコンサルティング』ができるシンクタンク</li> </ul> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設備投資に対する一時的な助成ではなく、ビルや土地を市が買い上げ、リノベーションを施した「シェアビル」を運営し、Uターン、Iターンで事業を行いたい若者や、事業主に貸し出すようなプロジェクトの検討や「特区」として、様々な企業をキュレーションする。</li> <li>・古い街並の存在そのものに価値があるものについては、保存対象とし保存者に対して助成を行い、観光資源を確保する。</li> </ul> <p>(効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・盛岡が人が活気を作りやすいまちとして、新しいチャレンジができる、等。</li> </ul>	男	30代	市内

まちづくりへの提言一覧

No.	提言論点	提言概要	性別	年齢	居住地
11	市民の社会参加に関する提言 ・各地区への市民の相談所(パイプ役)の設置	(現状) ・市民はすぐに市役所に相談できないし、市役所は、すぐに市民の話に対応できない。 ・お互いに話し辛いところもあり、理解ができるか疑わしい。上手く意思が伝わらず、スムーズに話が進まないこともある。  (提言) ・市民の相談所が各地区に必要である。 ・市民と市役所のパイプ役がほしい。  (効果) ・相談所で受けた市民の話をまとめて市役所に話すことで、無駄な時間が減り、相談内容もはっきりして解決が早くなり、市民満足度も向上する。	男	50代	市内
12	産業振興・観光に関する提言 ・盛岡城の再構築	(現状) ・ヒット商品の核はインパクトと知名度であり、また、その内容を分かりやすく伝え、何を伝えていくかが重要となる。  (提言) ・盛岡城を再構築し、全国に発信する。 (例) ・運営費には寄付金やグッズ等の販売収益、税金を充てる。 ・マスコミにPRし、全国に情報発信する。  (効果) ・盛岡城が観光拠点となり、盛岡に観光客が集まる。	男	50代	市内
13	中心市街地の活性化に関する提言 ・中心市街地で緑や自然を感じることができるまちづくり	(現状) ・盛岡の周辺にはたくさんの自然があるが、市内中心部には意外と緑や自然を感じさせる場所が少ない。  (提言) ・中心市街地にビルや駐車場を整備するのではなく、公園整備や植樹により野鳥が集まる場所を作るなど、緑や自然を感じる場所を作るべき。	不明	不明	市内
14	歴史や景観に関する提言 ・歴史や景観を重視したまちづくり	(提言) ・大清水多賀のように歴史ある建築物や庭園をなくしてしまったり、徳清倉庫を一部解体し、道路を拡張するなど、経済性や利便性を追い求めた情緒や景観などを軽視した開発は慎んでほしい。経営に力を貸すということではなく、貴重なものの存続に尽力してほしい。 ・歴史ある施設は、既に公共のものだという意識で行政も対応し、市民のコンセンサスを得たうえで、事業をすすめてほしい。	不明	不明	市内
15	まちづくりに関する提言 ・盛岡市中心部東部のまちづくりの検討	(提言) ・市民の社会参加に関してはすでに様々な地域公民館が多数つくられてはきたものの、盛岡市中心部東部では十分とはいえない状況となっており、検討する必要がある。	男	不明	市内
16	まちの活力に関する提言 ・総花的な地域計画のあり方の再検討とメリハリのある街区計画の提示	(現状) ・盛岡市は、市内中心部での経済的活力を失っている。軸上都心を目指すとはいいながら、実態は盛南開発によって中心部は放棄されたに等しい。 ・環境の保全については、美しい盛岡が強調される一方で中心市街地を活用したいとする施策とは両立せずに半世紀が過ぎた。 ・華々しく市民に生垣や植樹の勧めをしてきてはいるが、それがどのように経済振興や都市生活のあり方に繋がるかは、開発行為の規制も含めて市民には十分に周知されてきたとは全く言えない。 ・一部市民の関心や啓発はあっても、それが本当に市民多数に理解されていれば、行政側からの施策提起も含めて多様な可能性を創りだしてきたはずである。  (提言) ・コンパクトシティを実現するのであれば、総花的な地域計画のあり方を再検討し、メリハリを付けた街区計画を提示すべきである。 ・一過性の提案ではなく、長期的視点を市民に早くから問いかけるべき。	男	不明	市内



まちづくりへの提言一覧

No.	提言論点	提言概要	性別	年齢	居住地
17	若者の社会参加に関する提言 ・若者ミーティングの実施	(現状) ・若い世代は行政に興味が無いわけではない。 ・もう少し市のイベントに参加しやすい環境づくりが必要。  (提言) ・「若者ミーティング」を実施する。 (例) ・参加者は20～40代とし、居酒屋などで、20～30人程度のミーティングを開催する。 ・初めは行政が中心となって開催し、その内容を毎月ホームページ等で公表する。	男	30代	市内
18	まちづくり・観光に関する提言 ・「神社通り・門前町」の構築	(現状) ・八幡宮界隈は、松尾神社・八幡宮・護国神社・住吉神社・天満宮の5棟が一本の道路に横並びに建っている。 ・5棟の神社周辺は自然景観が豊富であり、住吉神社のケヤキの大木、天満宮の石段など風情があるものが多い。 ・神社には神楽堂があり、祭礼にはそれぞれ伝統民族芸能である神楽の演舞がある。 ・天満宮の啄木の市碑や各神社に名物、旧跡、秘宝等があり、また、それぞれに郷土色豊かな祭礼や駐車場、休憩所等がある。  (提言) ・5棟の神社や社が並ぶ道筋を「神社通り」、「お社通り」と呼び、周辺を「門前町」として、周辺環境を生かしながら、「神社通り・門前町」を構築し、盛岡の観光拠点とする。 (例) ・周辺の観光資源を掘り起こし、エリアの高齢者のボランティアによる情宣活動等を行う。	男	70代以上	市外
19	放射能汚染対策に関する提言 ・食品のベクレル表示 ・放射能汚染により被害を受けている生産者への迅速な救済	(現状) ・福島原発事故により、岩手県の農水産物も汚染されている。 ・政府が決めた現行の基準値は、高すぎると感じている。  (提言) ・岩手県内の基準値を厳しく設定するほか、消費者個人で食物を選択購入できるよう食品のベクレル表示をする。食べて応援したい人、食わずにほかの方法で応援したい人、それぞれの復興を願う気持ちを実現できるように、被災地岩手はもっと声を上げて良いと思う。 ・放射能汚染により被害を受けている生産者に対して、迅速な救済を進める。東電や政府のように後手後手のやり方で、一番被害を受けるのは子ども達であることを認識する。	女	36	市内
20	情報発信に関する提言 ・マスコミを通じた積極的な情報発信	(現状) ・盛岡市に限らず自治体がどういう仕事をしていて、どういう課題を持っているのかみんなよく分かっていないと思う。  (提言) ・マスコミを通じた積極的な情報発信をしてみてもどうか。 ・芸能人の活用や討論番組の制作をしてみてもどうか。	男	33	市内
21	災害対応に関する提言 ・災害に対応できる組織体制の構築	(現状) ・東日本大震災や8月の豪雨の被害等をみると、災害に対する対応力が弱い。  (提言) ・大規模災害がおこってから対応を協議するのではなく、災害の状況や被害を想定した上で、対応策をあらかじめ検討し、対応策については、災害対策の担当部署だけでなく、市役所全体へ伝達・共有し、同じ意識で判断・行動できるような体制にする。 ・現場レベルでの判断を迅速に行い、それらを市民にすばやく伝え、少しでも被害が軽減されるように対応すべき。	不明	不明	市内

まちづくりへの提言一覧

No.	提言論点	提言概要	性別	年齢	居住地
22	行政運営に関する提言 ・行政と市民・民間企業との対話の機会づくり	(現状) ・行政は行政の論理を押し通そうとしている部分があるように思える。  (提言) ・もう少し市民や民間企業の気持ちに寄り添った運営をすべき。 ・もっと行政と市民・民間企業との対話を増やし、お互いの意識・思想のズレを少しでも埋め、同じ方向を目指したまちづくりを行うべき。	不明	不明	市内
23	復興支援に関する提言 ・冷静な検討ができる環境づくり ・単なる美談ではなく、実質的な施策、支援の検討。 ・災害に関する古記録の活用 ・過去の徹底的検証と新たな異常事象を並行して判断するための情報収集	(現状) ・復興支援は今後も日々努力すべき事業であり、努力は当然必要であるが、東日本大震災をキッカケにして国土強靱化も国策の中に入ってきた。 ・全国的には始終災害が多発している中での報道のあり方もさらに一過性の強い、厳しい言い方をすればあたかもショービジネスのように展開されている事例すら見受けられる。 ・シティプロモートと教育にも関わるが、今回大震災が一千年の昔同様に発生しているとするれば、当然ながら当時為政者の興亡にも関わっていた筈であり、災害に関する古記録を防災視点だけではなく、多角的に論じ、活用する時代に入った。 ・既に異常気象は地球のバランスが崩れたとする報道もなされた。地震に限らず近年の災害はあまりにも過去の災害とオーバーラップしているが、不幸なことに近現代史の把握は全国的にも不十分なことが多い。  (提言) ・冷静な検討ができる環境づくり。 ・単なる美談の提供だけではなく実質的な施策を考え、現代で成し得る支援の検討。 ・災害に関する古記録を防災視点だけではなく多角的に論じ、活用すべき。 ・いま現実に残されている都市を維持、もしくは効率的な都市構造を目指す第一歩となるような計画をもつために、過去の徹底的検証と「新たな異常事象」とを並行して判断できる情報収集が必要。	男	不明	市内
24	災害対応に関する提言 ・災害時の年配者への情報発信	(現状) ・携帯電話などの電子機器を自在に扱う若い世代と年配者では情報収集手段が異なるため、若い世代と年配者では情報格差が大きくなっており、災害時に市から重要な情報を収集できずに孤立する世帯も多いのではないかと。 ・災害時、避難所では経験豊富で元気な年配者が中心的役割を果たすことが多い。  (提言) ・災害時の年配者への情報発信について検討する必要がある。	不明	不明	市内